

入園して2か月が経ちました。一人ひとりの生活リズムで安心して過ごせるようになり、保育者と目が合うとにっこり笑ってくれる姿が見られるようになり嬉しく思います。保育室ではずり這いやハイハイをして気になる玩具を取りに行き、手に取って嬉しそうに微笑んだり、伝い歩きや歩行をしながら好きな場所に行くことを楽しんだり、保育者に見守られる中で行動範囲も広がり、安心して探索活動を楽しむ姿も増えてきました。大学構内への散歩では、バギーに乗って心地良い風を感じたり、景色を楽しんだりしています。芝生や森では、タンポポやシロツメクサを手にとって花びらに触れたり、アリを見つけてハイハイで追いかけたりと身近な自然に関わろうとする姿も見られます。

これからも、子どもたちが安心して過ごせるようにゆったりと関わりながら一人ひとりの思いを受けとめて過ごしていきたいと思ひます。

6月は1名の新しい友だちが加わります。雨の多い季節になりますが、室内でもマットやトンネル等を使って体を動かすことを楽しみ、晴れた日には、園庭で砂に触れて遊んだり、散歩に出かけて自然を感じたりして、子どもの気づきに寄り添いながら、心を動かす体験をたくさん楽しんでいきたいと思ひます。



友だちとの関わりも見られるようになってきました。Aちゃんが「あー」「うわー」と喃語を話しているとそばにいたBちゃんが「あー」とAちゃんに返して声を出していました。一生懸命何かを伝えようと何度もやりとりする姿が赤ちゃん会議のようで微笑ましいひとときでした。

ひよこ組になり、2か月が経ちました。園での生活に少しずつ慣れ、笑顔で過ごす時間が増えてきました。ひよこ組では午前中の活動を3つのグループに分かれて過ごしています。一緒に朝の牛乳やお茶を飲んだり、戸外遊びの準備をしたりする中で、少しずつ同じグループの友だちや保育者が分かるようになってきました。戸外遊びの際は保育者の声かけで、自分のマークを探して帽子や靴を出し入れしたり、身の回りのことを自分でしようとする姿も見られるようになってきました。難しいところは手を添えつつ、子どもたちのやってみようという気持ちを大切にしていきたいと思ひます。

園庭では、虫探しや砂遊びを楽しんでいます。「むいむい（むし）さーん」と呼んで落ち葉をめくったり、丸まったダンゴムシを見つけてカップに入れると、友だちとじっくり眺めて「ねんね?」と不思議そうにしたり、身近な自然に関わろうとする姿が見られます。一人ひとりの発見や気づきを大切に、やりとりのひとときを楽しんでいきたいと思ひます。雨の多い季節になりますが、梅雨の晴れ間に戸外遊びを楽しんだり、散歩に出かけたりして、自然と触れ合いながらのびのびと体を動かして過ごしていきたいと思ひます。また、今月は絵の具で指スタンプを楽しみます。絵の具も感触や指で色がついていく面白さや楽しさを一緒に味わい、一人ひとりの表現を大切にしたいと思ひます。素敵な七夕飾りに変身する予定ですので楽しみにしててくださいね。



保育室にある『ぼんちんぱん』というパンを題材にしたリズムカルな言葉遊びの絵本が大好きな子どもたち。「ぼんちんぱん」と繰り返し登場するフレーズに合わせて「ぱーん!」と元気な声が響きます。また、リズムに合わせて手拍子をしたり、体を揺らしたりして表現する子どももいて、色々な表情の「ぼんちんぱん」が見られ、とてもほほえましいです。これからも一人ひとりの表現を大切に、様々な絵本のひとときを一緒に楽しんでいきたいと思ひます。

りす組での生活にもすっかり慣れ、戸外遊びの時間には『あぶくたった』や『むっくりくまさん』などの簡単なルールのある遊びを楽しんでいます。『あぶくたった』では「トントントン」と戸を鳴らす音と「何の音?」と尋ねるわらべうたのかけ合いがあります。そこで、子どもなりに返事を考え、「風の音!」や「バナナが落ちた音!」などユニークな答えにみんな笑い合いながら楽しんだり、様子を見ている友だちに「ここいいよー!」と輪の中に入れてあげようとしていたり、優しい姿が見られ微笑ましく思ひます。

生活面では靴下の“仲良しうさぎ”（重ねて丸めること）を丁寧に見守りながら、少しずつ自分でできるように取り組んでいます。保育者に「仲良しうさぎして!」と持ってきて、手を添えてもらいながらやってみようとしていたり、最近では「自分でできるよ!」と頼もしい声も聞かれるようになってきました。お家でも子どもと一緒にする経験を大切に過ごしてほしいと思ひます。

今月は七夕制作を楽しみます。細長く切った画用紙にのりを塗り、好きな○△□などの形を選んで貼ったり、コーヒーフィルターに絵の具を垂らし、にじんで色が混ざる様子を楽しみ織姫彦星の服を表現したり、制作を楽しみたいと思ひます。いろいろな素材に触れ、一人ひとりの表現を大切にしながら取り組みたいと思ひます。楽しみにしててくださいね。



園庭で巧技台からジャンプをして遊んでいた時のこと。Aくんが巧技台に上ると、下のマットにアリを見つきました。するとAくんは「ぶつかっちゃう...」と言って、アリが通り過ぎるまで巧技台の上でジャンプせずに待っていました。

小さな生き物の存在を大切に思い優しく関わる姿がとてもほほえましかったです。